

見えない資産

ESGの取組み 環境・社会・ガバナンス

東京ガスグループサステナビリティレポート2019
tokyo-gas.disclosure.site/ja



CSR重点課題(マテリアリティ)と持続可能な開発目標(SDGs) 達成への貢献

CSR重点課題(マテリアリティ)

マテリアリティ

CSR重点課題(マテリアリティ)	マテリアリティ	
戦略	国内外でのエネルギー安定供給	<input type="checkbox"/> ガス・電気の安定供給 (P25) <input type="checkbox"/> 原料の安定調達 (P25)
	強靱なエネルギープラットフォーム	<input type="checkbox"/> 途上国のエネルギーインフラ構築 (P39) <input type="checkbox"/> 安全と防災 (P25) <input type="checkbox"/> 持続可能なまちづくり・快適な暮らしづくり (P25)
	エネルギー供給を通じた社会全体の低炭素化	<input type="checkbox"/> 温暖化対策 (P05) <input type="checkbox"/> 資源循環の推進 (P05) <input type="checkbox"/> 生物多様性保全の推進 (P05)
基盤	—	<input checked="" type="checkbox"/> 活力あふれる組織の実現 (P55) <input checked="" type="checkbox"/> ステークホルダーとの良好な関係 (P31, P52) <input checked="" type="checkbox"/> エネルギー企業としての公益的使命の遂行 (P25)

ガバナンス・コンプライアンス

事業活動を通じて社会課題の解決に取り組むというCSR基本方針の下、暮らしや産業の基盤となるエネルギーの安定供給を通じて安心・安全な生活を支えること、そして環境性に優れたエネルギーを供給することで、社会の持続的発展に貢献していきます。活動推進にあたっては、マテリアリティごとに目標を設定し評価・改善を行うとともに、マテリアリティとSDGsとの関係性を整理し、CSRマネジメントを通じてSDGsの貢献に取り組んでいます。

ESG
ハイライト

E 環境

高効率機器の開発・普及、分散型発電システムの拡大などに取り組み、2018年度は2011年度比で452万tのCO₂排出量を削減しました。

お客さま先の都市ガス消費段階におけるCO₂排出量削減

452万t



エネファーム累計販売台数

11万台



省エネ・省CO₂に貢献する家庭用燃料電池エネファームに関して、2018年12月、販売事業者として初めて累計販売台数11万台を達成。

ガスコージェネレーションシステムの発電効率

52%



高効率なガスコージェネレーションシステムの開発にも取り組み、発電効率52%、総合効率90%の業務用燃料電池を商品化。



130年以上にわたるエネルギー事業で培ってきた知見や技術を生かし、目標7、9、11、13に注力しつつ、ステークホルダーの皆さまとのエンゲージメントをもとに、社会課題の解決に資する取組みを推進していきます。

S 社会

ガス導管事業者として、約6万kmのガス導管網で1,100万件を超えるお客さまに安定的にクリーンな都市ガスをお届けしながら、重大供給支障事故は2018年度は0件でした。

お客さま件数

1,100万件以上



重大供給支障事故

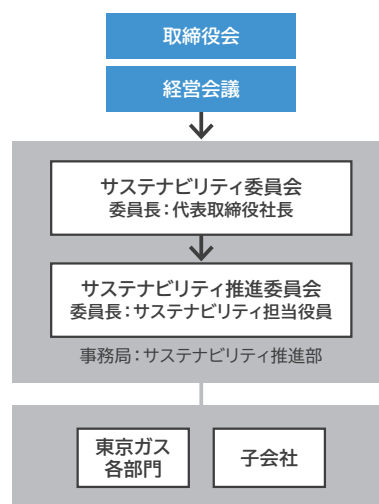
0件



CSR経営のさらなる推進

昨今、持続可能な社会実現に対する企業への期待・要請が高まっていることから、これまで以上に取組みを推進すべく、2019年4月より、環境部と広報部CSR室を一元化して「サステナビリティ推進部」を設置しました。加えて従来担当役員が議長であったCSR推進会議体について、社長を議長とする会議体「サステナビリティ委員会」とし、CSR経営のさらなる推進を図っていきます。

CSR推進体制図



G ガバナンス

取締役会・監査役会の構成において、2018年度は社内の人数を前年度の10名から3名減の7名に、2019年度は社外の人数を従来から1名増の7名とし、社外比率を一層高める変更を行いました。

コーポレート・ガバナンス ▶ P41

取締役会・監査役会の構成の変化

